

現代宗教研究室
令和4・5年度 仏教とジェンダー研究会 報告
「女性教師全数アンケート」実施の経緯と中間報告

現代宗教研究室 常勤教授
田村 宗英

研究会の目的・趣旨

現代宗教研究室では、総合研究テーマ「伝統の創造」に対して現代的に取り組むため、令和2年度より「仏教とジェンダー」研究会を開催している。

ジェンダー（社会・文化的に作り上げられた性別、それらに基づいた社会的属性や機会、関係性）の問題については、社会全体でも高い関心が持たれている。しかし、仏教でどう捉えるのかに関しては、これまでも多くの学者が文献研究や歴史研究のなかで論じてはきたものの、仏教宗団の現状や課題については十分に考察できているとはいえない。そのため、現在の仏教宗団や今後のありかたを模索するため、本研究会では女性教師（尼僧）と寺庭婦人の歴史や現状に関して研究を行っている。

これまでの活動概要

- 令和2年度 川橋範子著『妻帯仏教の民族誌』（人文書院）輪読
令和3年度 個別の問題に対する研究員の発表
（令和2・3年度については『現代密教』第31号にて報告）
令和4年度 （他宗）外部講師を招聘
令和5年度 本宗女性教師へのアンケートを実施
調査対象者 全女性教師（調査票送付数206通）
調査票配布 6月19日投函

「女性教師全数アンケート」実施の経緯と中間報告

調査票回収 7月28日×切

令和4年度は、他宗における女性教師の現状や問題点を学ぶため、東京経済大学非常勤講師・丹羽宣子氏による講演会「日蓮宗の女性僧侶をめぐる現状と課題」を開催した（令和4年6月7日）。日蓮宗で実施した「日蓮宗全女性教師アンケート」の第1回（2002年度）と第2回（2021年度）の回答から見られる傾向について考察した。また、11月16日には浄土宗僧侶・元全日本仏教会勤務・現在浄土宗宗務庁の菊池友純師に浄土宗の女性教師（尼僧）の現状と課題についてご講義いただき、研究会にて本宗との比較検討を行った。

令和5年度は、昨年度行った研究会での学びを踏まえ、女性教師特有の課題を見極めるべく、本宗の「女性教師全数アンケート」を実施した（詳細は次項～）。

令和5年度「女性教師全数アンケート」実施の経緯

令和5年6～7月に本宗の全女性教師を対象としたアンケート調査を実施したが、調査に至る経緯について述べておきたい。

前項に記載したとおり、令和4年度の研究会では、他宗における女性教師について、外部講師を招聘し学びを深めたが、その中で多くの課題が指摘されていることがわかった。そのため、次の段階として、これらの課題が本宗においても該当するものなのか比較対照を試みることとなった。しかし、下準備として女性教師のデータを収集する段になり、そもそも女性教師についてのデータがほぼ存在しないことが判明した。当初の目論見としては「総合調査」のデータから抽出できるものと考えていたのだが、残されているデータには性別の区分が不明なものが多々あることや掘り下げて調査したい事柄があっても、既存の調査項目だけではカバーすることができない事例もあることから、利用を断念することにした。このような事情から、新たにアンケート調査を行う必要があると判断した。加えて、一例を挙げると「総合調査」の分析研究報告書

において、女性教師の増加が指摘されている。しかし、その理由については明確ではないため、増加の背景を探る必要性があると考えた。

以上、今後も女性教師の増加は見込まれ、住職・主管者として寺院活動を中心的に担っていくケースが予想されることから、本宗寺院の活性化のためには女性教師の動向を追い、他宗派の調査で見られるような課題があれば、適切な方法等を模索する必要があるという考えに至った。まずは、状況を包括的に把握するため、本宗女性教師の全数アンケート調査を実施する運びとなった。

「女性教師全数アンケート」対象者と調査項目について

・対象者について

対象者を「女性教師」に絞った理由について述べておきたい。「教師」については、『宗制』において「高等学校卒業程度以上の学力を有して、入壇以上の行位を履修した僧侶に限るもの」と規定されているが、女性僧侶まで対象を広げてしまうと得度のみを者を多く含むと同時に、寺族、寺庭婦人や年少者も多数含むことから、活動の実態がつかみにくくなると予測し、教師に限定することとした。加えて、他宗（日蓮宗）の調査では女性教師を対象としていることから、比較検討が容易になると判断したためである。

「女性教師」という表記にした理由についても追記しておきたい。一般的に女性の僧侶を「尼、尼僧」と呼ぶことが多いが、上述のとおり、教師に限定した調査であることから明確に「女性教師」という表記を使用することとした。また、『宗制』の「教師規程」に女性僧侶・教師を指して「尼、尼僧」とするような表記がないことも理由の一つである。

・調査項目について

調査項目の内容については、令和4年9月～12月にかけて研究会内で検討を行った。調査項目の詳細は来年度の『現代密教』に掲載予定であるが、大枠を示すと以下のとおりとなる。

「女性教師全数アンケート」実施の経緯と中間報告

〈調査項目概要と設定の理由〉

1. 基本情報（教区、年代、僧階など）

2. 教師になった動機と時期

（僧階取得の動機、現在の師僧との関係、補命された年齢など）

→男性の後継者がいない、夫である僧侶との離別など、女性特有の事例があるかどうかを把握するため。

3. 教師として活動状況

4. 今後の活動状況

（自身が希望する活動が行えているか、研鑽の機会としてどのような内容を希望するか、など）

→女性教師が資格保持のみではなく活動しているかどうか、また活動しやすい状況にあるかどうかを把握するため。

5. 生活の状況

（相談できる相手の有無、頭髪について）

→日常生活において女性特有の問題があるかを探るため。

6. 教師としての自覚と目標

（目標、女性教師として意識して活動していることはあるか、など）

→教師としての自覚や目標を把握し、その中に女性特有の事例があるかどうかを探るため。

「女性教師全数アンケート」中間報告

中間報告として、回収率と一部の集計結果を報告する。集計結果の詳細と分析研究については、来年度の『現代密教』に掲載予定。

- ・調査票回収率 約50%
- 送付数 206通（うち宛所不明3通） 回収総数 97通

「総合調査」の回収率（おおむね70%以上）と比較すると低く感じられる。一方、郵送を用いた一般的な社会調査での回収率は25%、目標として30%とされていることと比較した場合には、十分に高い回収率といえるであろう。

「総合調査」と比較して回収率が低くなった要因は複数考えられ、第一にこの「女性教師全数アンケート」が‘初めて’であったことが大きな要因であろう。「総合調査」は昭和50年より5年ごとに繰り返し実施され、宗派内での認知度は非常に高いといえる。また、配布方法の違いも遠因として考えられる。第二には、師僧との関係も一因ではないかと推測している。今回、師僧寺以外に居住している女性教師においては、わかる範囲で居住住所に調査票を送付することにしたが、主には師僧宛てに送付を行った。宛所不明で3通が返送されているという点も含め、師僧とは別に居住しており、かつ遠方の場合、師僧から受け取る機会を逸してしまい、手元に届いていないという女性教師も一定数いたのではないかと思われる。これについては、師僧との関係が良好であるか否かという問題も含んでいるものと推測される。第三に、こちらの調査の意図が不明瞭で、どう回答すべきか分からなかったのではないかと反省している。先入観を持たずに回答をしてもらおうと、送付状はごく事務的な文言にしたのだが、‘初めて’であるがゆえに、より丁寧な調査の経緯や設問の設定理由等を説明すべきだったのではないかと思っている。もし次回の調査を行うことがあれば、改善していきたい。

次に、一部の集計結果として「僧階・行位」に関連する項目について提示する⁽¹⁾。

※全回答数をサンプル数として提示。選択肢が複数のものは上位回答のみを提示、また複数回答の項目もあるため、必ずしも100%にはならない。

「女性教師全数アンケート」実施の経緯と中間報告

集計結果（一部）「僧階・行位」関連項目

・練行の履修状況（サンプル数95）

	回答数	%
履修した	26	27.4
履修していない	69	72.6

・練行を履修しない理由（サンプル数69）

	回答数	%
時間的理由	44	63.8
必要性を感じない	19	27.5
経済的理由	10	14.5

・六級昇補の希望の有無（サンプル数80）

	回答数	%
希望する	28	35.0
希望しない	47	58.8
無回答	5	6.3

・六級昇補を希望する理由（サンプル数28）

	回答数	%
個人の研鑽	22	78.6
法流の伝承	11	39.3
本宗他教師との兼ね合い	6	21.4

・六級昇補を希望しない理由（サンプル数47）

	回答数	%
昇補に興味がない	32	68.1
時間的理由	18	38.3
その他	12	25.5

[研究会構成員]

鈴木晋怜、田村宗英、阿部貴子、竹内照公、安井光洋、鈴木晋雄、松本亮太、小崎良行

以上

註

(1) 僧階や行位に関連する項目は、令和3年度実施『総合調査分析研究報告書』p.74に指摘されているが、「六級昇補の希望の有無」では「希望する」男性4割に対し、女性は2割と男女間で明白な違いが報告されている。